



縞模様のパジャマの少年

ボイン作 千葉茂樹訳 岩波書店

ナチスドイツの軍人の息子ブルーノは、父親が強制収容所へ転属したため、遊び相手も学校もない所へ引っ越した。やがて彼はフェンス越しに、収容所の中にいたポーランド人の少年と出会い、奇妙な友情を育むようになるが…。第二次世界大戦中に、ナチスによるユダヤ人の大虐殺がおこなわれた収容所をモデルにした作品。実際のフェンスは近づくことすら困難だったという。「ありえなかった」物語に作者がこめた思いとは何か。悲しい最後だが、心に残る一冊。

